



つづく つながる 夢が育つ学び舎

国立二小だより

令和元年5月30日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

伝統を絆に 子供がつなぐ二小のよさ

校長 小林 理人

日毎に深さを増す木々の緑を見ていると、本校に着任した年の運動会を思い出します。当時は春の運動会で、真夏を思わせる暑さの中、6年生の二松ソーランが始まりました。

手染めの法被をはおり全力で踊る姿を保護者や地域の方が温かく見守り、下級生が憧れの眼差しで見つめていました。会場全体の視線を集め、国立二小の一体感をつくる「二松ソーラン」に伝統の力を感じました。

二小の絆、伝統の「二松ソーラン」

本校には、「二松ソーラン」に代表されるように上学年が下学年の目標やあこがれとなって進んでいる取組や行事がたくさんあります。そして、それが他校にはない二小の伝統となっています。

5月に行われた遠足では上学年の子供が活動の計画を立て、下学年のお世話をしながら楽しく過ごします。委員会やクラブ活動、集団登校を含めた縦割り班の活動では、上学年が卒業生に託された思いを大切に、よりよく楽しい生活のための活動を考え実行しています。そして、6月の体力測定では縦割り班による測定を実施し、教え合いや励まし合いの力が測定結果にも表れています。

さらに、この伝統は二松クラブや学校に泊まる会などの地域行事や金管バンドやドッジボールなどの放課後の活動にも活かされ、学校だけではなく地域の太い絆づくりにつながっています。

二小のよさや伝統を子供がつなぐ

少し前の話になりますが、離任式でうれしいことがありました。

離任式には3月までお世話になった4人の先生を迎え、代表の児童が想いを込めた手紙を読んだり、感謝の言葉を添えて花束を贈ったりしました。そして、離任した先生から二小での思い出や新しい学校のこと、子供たちへの想いなどの話がありました。子供たちは懐かしい思い出話に照れ笑いを浮かべたり、先生とのお別れに涙したりしながら静かに聞いていました。

「皆さんは困っている友達に温かい言葉かけができます。そして、二松ソーランなど、よい伝統を自分たちの力でつないだり、守ったりしています。このことは二小の子供たちにしかない素晴らしい力だと思います。」

「あたたかい心や自分の考えで行動する力が二小のみんなの素晴らしさです。」

離任した先生たちは、二小のよさや子供たちの素晴らしさを誇らしく語りました。そして、それは子供たちが育て、つないできた二小の伝統であることを子供たちに伝えてくれました。

「平成」を締めくくる、温かい心、優しい心が通い合う離任式になりました。

6月15日(土)に道徳授業地区公開講座を行います。今年度は、校舎の建て替えや創立70周年の記念事業など、国立二小の節目となる年を迎えるにあたり、国立二小のよさや伝統を築いた人たちの思いに触れ、伝統の意味を考えることを中心に行う予定です。二小にとっての伝統は今と未来をつなぐ「絆」です。この道徳授業地区公開講座をきっかけとしてその絆をさらにたく育てていきたいと思ひます。